

平成 29 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

生徒一人ひとりを大切にし、みななが生き生きできる多様性を大切にする学校づくりをめざす。

- 1 「何ができるようになるか」を大切にし、生徒の視点に立った「わかる」授業づくりと「学ぶことがおもしろいと感じる」授業づくりをめざす。
- 2 人権教育を基盤にした生徒一人ひとりを大切にする「安全安心な学校づくり」を行う。
- 3 地域に根差した「面倒見のよい」地元の高校としての役割を果たし、生徒の多様な進路実現を支援する学校づくりをめざす。

2 中期的目標

1 加速度的に変化し、複雑で予測困難な社会の中で必要な「資質・能力」の育成

(1) 次期学習指導要領を踏まえ「育成をめざす資質・能力」を伸長させる授業改善に取り組む。

- ア 「何を知っているか」だけでなく「何ができるようになるか」を目標に、「どのように学ぶか」の視点を大切に、主体的・対話的で深い学びにつながる授業改善の研究・実践を組織的にすすめる。またルーブリック評価などの評価方法の研究も引き続き行う。
- イ ICT(プロジェクター等)を活用した授業を多様な教科で行い生徒の授業への満足度を向上させる。(H28-H30 学校経営推進費対象事業)

(2) 生徒の進路選択の可能性を広げるキャリア教育の充実を図る。

- ア 外部の基礎力診断テストを効果的かつ組織的に活用し、進路を切り拓く学力育成に取り組む。
- イ これまでのキャリア教育の取組み・成果を継承し、3年間を通した生徒一人ひとりの社会的自立に向け、社会に必要な資質・能力や態度を育て生涯学び続けようとする生徒を育成する。
- ウ 進学も就職もできる幅広い進路選択が可能な指導体制の充実に取り組む。

2 一人ひとりを大切に、安全安心な学校づくり

(1) 学習支援委員会および教育相談体制を充実し、中退防止に努め、一人ひとりを大切に教育の充実を図る。

- ア 学習支援委員会と教育相談委員会を軸に、一人ひとりの教育的ニーズに応じた支援の充実を図る。教科・学年・分掌が連携し、生徒情報の共有を綿密に行い、学校として組織的な取り組みを進める。SC や SSW など校外の専門員等と連携を深め、チーム学校としての指導体制を行う。
- イ 中学校訪問・中高連絡会を継続し、生徒理解を深め、中途退学者の減少に努める。
- ウ 人権教育推進委員会を軸に、お互いを大切にする態度の育成をめざし、人権侵害を許さない学校体制づくりを引き続き進める。
- エ 生徒への安心アンケート等の活用し、いじめの未然防止・早期発見・早期解決に取り組む。

(2) 防災教育の充実を図る。

- ア 大阪湾に近い本校の立地から、東南海トラフの大地震を想定し、学校生活における安全確保にとどまらず、一般生活での自分の身の安全を守る方法や、周囲・地域の人への貢献を考える姿勢などを身につけさせる。

(3) 生徒の校内美化の意識を高めるため美化活動の充実に取り組む。

(4) 生徒が自らの健康と安全を考えるため、薬物乱用防止、喫煙防止に積極的に取り組む。

(5) 進化の著しい携帯情報端末機器(スマートフォン、タブレット端末など)の正確な知識を習得し理解を進め、安全な使用法を身につけさせる。

(6) 生徒が安全・安心に学校生活を送れるよう、事故防止を観点におき施設・設備の充実を図る。

3 地域に根差した魅力ある学校づくり

(1) 大阪市西部のベイエリアに立地する学校という特色を生かし、地域の企業、施設などの外部と連携し、職場体験・実習などの活動を充実させる。

- ア 地域の企業、施設あるいは区役所と連携しインターンシップや職場体験を充実させる。

(2) 部活動の活性化を図り、地域に貢献できる部活動づくりを進める。

- ア 部活動の参加率を上げるとともに、活動を地域にアピールでできるような取り組みを進める。

(3) 地元高校としての、生徒・保護者・地域の多様なニーズに応え、進路指導の充実を図り、就職内定率、進学決定率の向上を図る。

- ア 校内外の環境の変化に対応した進路指導の充実を図り、就職内定率 100%・進学決定率 100%、進路未定率 12%以下を目標とする。

(4) 授業内容充実のため学校外の人材や資産(施設・設備・機関)の活用を図る。

(5) 泉尾・大正統合新校再編整備プロジェクトチーム(PT)を通して、大正高校がこれまで培ってきた教育内容(特色)を新校へ継承する。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 29 年 12 月実施分]	学校協議会からの意見
<p>【学習指導】「授業はわかりやすい」75%→77%、「先生は教え方に工夫」73.3%→74.7%とやや向上。これまで学校全体として取り組んできた生徒の視点に立った授業改善の成果は維持していると考えている。</p> <p>【生徒指導・生徒会】「生徒を公平に指導してくれる」67%→68%、「先生は悩みや困っていることに相談にのってくれる」73%→76%、「体育祭や文化祭の生徒会行事に楽しく参加している」73%→75%、「遠足などクラス活動には楽しく参加」74%→78%。今後もより丁寧な指導を継続していく必要がある。「大正高校には一緒にいて楽しい友人がいる」85%→87%、「お互いを思いやることの大切さを学んでいる」73%(±0)は、人権を大切にする教育を一層進めたい。</p> <p>【進路指導】「進路についての情報を知らせてくれる」79%→80%、「生き方考えるプログラムがある」77%→72%、「先生は進路について将来をもとに考えてくれる」78%→79%など高い割合を維持しているが、1年生キャリアプログラム「カタリバ」や2年のマネープラン HR などより効果的なキャリア教育を充実させたい。</p> <p>【保護者向けアンケート】 「こどもが授業が楽しくわかりやすい」62%→58%とやや減少(H27:58%)</p>	<p>【第1回】6月10日(土)10:40~12:00 (学校より)</p> <p>11/17に創立40周年記念行事を実施。昨年度、遅刻防止の取組みが成果を上げた。今年度も頑張っている。全HR教室設置のプロジェクター活用が広がり、多くの先生方が活用している。兄弟姉妹で大正高校に入学してくるケースが多い。大正高校の進路実現をきめ細かくサポートしてきた実績が地元根付いている証である。今年度スクールソーシャルワーカー(SSW)を校長マネジメント経費で導入。福祉や行政への橋渡しを期待したい。</p> <p>(意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・推薦入学等の入試制度についての質問→オープンキャンパスに積極的に参加するなど学費が安くなる制度がある。うまく活用を。 ・就職の状況の見通しはどうか? →好況である。人が足りないとよく聞いている。 ・就職は地元の企業が多いのか? →全国組織の会社もあるが、地元企業が多い。 ・来年度募集停止で2つの学年になると教員も2/3になるのか? →現段階ではわからない。何よりも在籍する生徒が大切なので、今まで以上の教育を提供する心構えで臨む。 ・(同窓会1期生)開校の頃の逆をたどっている様に感じる。 <p>(補足)統合再編整備について:学校概要について教育委員会会議を経て報道提供がある。統合新高校のホームページも完成し、大正高校、泉尾高校両校のホームページからリンク</p>

<p>したが、その他の学習指導や生徒指導についての項目は80%前後の高い数字で肯定的に受け止められている。</p> <p>進路指導については、「適切な進路指導を行っている」81%→85%、「家庭への適切な情報提供」74%→76%、「保護者の相談にのってくれる機会がある」75%→76%、丁寧な指導の結果、概ねよい評価が得られている。</p> <p>【教員向けアンケート】</p> <p>「情報機器など学習活動に活用」91%→95% (H27比+15) はH28府の事業により全HR教室に最新のプロジェクターが整備され、各授業やHRで積極的に活用された結果である。「教育相談体制が整備」65%→79%(+14)、本年度よりスクールソーシャルワーカーが来校し(月1回)、外部との相談体制が強化された。「校内研修体制が充実し活用」80%→87% (H27比+16))。学校を挙げて指導力向上に向けて取り組んでいるところである。</p>	<p>され見ることができる。</p> <p>【第2回】11月11日(土)9:40~10:30公開授業見学のあと協議(10:40~11:30)(授業見学について)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2年の保健を中心に見学。授業内容が非常に良かった。寝ている生徒もなく教員の思いが生徒に伝わった授業だった。 ・出産について扱っていたが子育ての原点でありしっかり学愛情を育む家庭を作ることにつながればよい。 ・体育館での体育。生徒の一生懸命授業を受ける姿があった。(学校より)・3年生進路状況の報告、いじめ防止の取組みについて ・新高校再編整備について(意見)・中学校としては2校が1校になるので最も苦しいところである。 <p>【第3回】2月9日(金)16:00~17:00(学校より)①「学校教育自己診断アンケート」結果より(意見)・「学校教育自己診断アンケート」生徒と保護者のアンケートの質問内容をもっと連動させると良い。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・薬物の講演会は現在の警察の他に、薬物を実際に使っていた人に来てもらっては?NPOなどで講演を引き受けてもらえるのでは。 <p>②「平成30年度 学校教育計画」について(学校より)「教員減でも教育の質は落とさない」ことを念頭に教育活動を行っていく。各行事をより魅力あるものにした。素案の例としては、運動会:業者に準備運営の一部を依頼、文化祭:外部や地域と方々を組み込む。芸術鑑賞:劇団四季と交渉中など。・「大正高校の完成」を合言葉に、最後の生徒である40期生(現1年生)に「入ってよかった」と言ってもらえる学校にしていく。・仲間づくりを土台に「安心なクラス」づくりをしていく。</p> <p>③進路指導について。(学校より)何も決まっていない生徒はいない。進路未定のくくりとなっているが、ワーキングホリデーを使った海外研修やミュージシャンをめざすためにアルバイトなど、生徒自身が考えた上での結論を出している。生徒ひとり一人の個性に合わせた進路指導を行っている。</p> <p>④(その他、意見)昨年春に卒業した生徒が大学アメリカンフットボールでMVPを受賞。もっと広報的にアピールしてはいかがか。</p>
--	--

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 「育成をめざす資質・能力」の伸長	(1)「育成をめざす資質・能力」の伸長 (2)キャリア教育の充実	(1) ア 授業改革につながる研究・実践を組織的にすすめ、評価方法の研究も含め授業改革の進展を図る。自己診断で「わかりやすい」「工夫」「考え・発表する」の数値アップを図る。 イ プロジェクター等を活用したわかりやすい授業で生徒の満足度を向上させる。(H28-H30 学校経営推進費対象事業) (2) ア 外部機関の基礎力診断テストを活用し、生徒個々の学力の伸長を外部のものさしで客観的に把握することで「進路を切り拓く学力」育成を行う。 イ「ドリームパスファイル」の3年間の活用と外部人材によるキャリア教育を充実させる。 ウ 3年間通した進学指導体制の充実を図る。	(1) ア 学校教育自己診断で「わかりやすい」75%→77% 「考え・発表する」70%→75% イ 学校教育自己診断で生徒「工夫している」73%→78% 教員「ICT等の設備の活用」91%→95% (2) ア 基礎力診断テストの各自の結果で、学力到達度の下位層の低減と中上位層の増加を図る。 イ「ドリームパスファイル」の活用状況を点検する。外部講師の活用状況。 ウ 進学講習の充実や大学見学、進学資金説明会などの開催	(1) ア 「わかりやすい」75%→76% 「考え・発表する」70%→61% 分かりやすい授業づくりはやや向上した。考え・発表する授業については、下がったものの、3年生対象の普通科総合選択制アンケートでは「大正高校で学習して専門的な知識が身についた」68.3%(+11.7)、「物事を調べる力がついた」75.5%(+8.2)と肯定的回答が増加している。(○) イ 生徒「工夫している」73%→75% 教員「情報機器の活用」(H27:80%→)H28:91%→H29:94.4% H28に全HR教室に設置された超短焦点型プロジェクター20台の活用は極めて高い水準にある。(○) (2)ア ・4・11月に基礎力診断テストを実施。診断分析結果と今後の学習方法について担任からHRでフィードバックを行い、2年生は下位層が減少、1年生は上位層が増加した。(○) イ ・テスト結果などをポートフォリオ化し一括管理することで進路決定に際し参考。(○)・キャリアカウンセラーなど延29名派遣。 ウ 各学年で夏期・冬期講習で10日間の進学講習、各2回の外部模試を実施。大学体験授業(7/16,27)、大学出前授業(7/12)、保護者向進学資金説明会(7/15)

府立大正高等学校

<p>2</p> <p>一人ひとりを大切に する安全安心な 学校づくり</p>	<p>(1) 支援体制の充実</p> <p>(2) 防災教育の充実</p> <p>(3) 校内美化</p> <p>(4) 健康・安全教育</p> <p>(5) 携帯情報端末機器の扱い</p> <p>(6) 校内環境・設備の充実</p>	<p>(1)</p> <p>ア 学習支援委員会と教育相談を活用し支援の必要な生徒のサポートに努める。</p> <p>イ 中学校との連携を密接に図り、中退者数を低減する。基本的な生活習慣の改善。</p> <p>ウ 人権委員会と各組織の連携を図る。</p> <p>エ いじめ防止委員会の安心アンケートによる生徒状況の把握と未然防止の取組み。</p> <p>(2)</p> <p>ア 学年ごとの防災教育の内容を充実させ、多様な状況にあったプログラムづくりをすすめる。</p> <p>(3)</p> <p>ア 美化月間を実施し校内美化の意識を高める。</p> <p>(4)</p> <p>ア 薬物乱用防止、喫煙防止について生徒指導 HR および保健 HR において取り組む。</p> <p>イ 心肺蘇生法について学ぶ機会を設ける。</p> <p>ウ 感染症対策を啓発し、予防に努める。</p> <p>エ 熱中症対策を啓蒙し発生防止に努めるとともに対処法を身につけさせる。</p> <p>(5)</p> <p>ア スマートフォンやタブレットについてその正しい扱い方法を知るとともに自分を守り、人を傷つけない方法を身につけさせる。</p> <p>(6)</p> <p>ア 事故防止のための環境整備に努める。</p>	<p>(1)</p> <p>ア 開催回数を把握し内容を検討する。SSW の訪問回数、ケース会議の回数。</p> <p>イ 中高連携の内容の充実 (訪問数) 中退者 →20 人以下 遅刻回数 4400→4000</p> <p>ウ 人権 HR の実施状況や委員会の活動状況の把握</p> <p>エ 安心アンケートから安心度の向上</p> <p>(2)</p> <p>ア 学校教育自己診断 (防災について学ぶ機会 76%→80%)、防災教育等の内容の工夫</p> <p>(3)</p> <p>ア 校内美化活動の点検を行い、清掃状況の把握を行う。(実施回数・期間)</p> <p>(4) 学校教育自己診断 (薬物等から身を守る) 80%以上</p> <p>(5) 講演や HR の実施状況を把握する。</p> <p>(6) 学校教育自己診断 (施設・設備の安全衛生面) 62%→67%</p>	<p>(1)</p> <p>ア SSW は 14 回来校。月 1 回、学年会に参加とケース会議を開催。学校教育自己診断 (教員)「教育相談体制が整備」79.2%(+13.8)、「外部人材や外部機関と連携」75.5%(+2.8)。(◎)</p> <p>イ 中退者 →23 名(△) 遅刻回数 4711 (H28: 4131) (△)</p> <p>ウ 1・2 年で各 2 回の人権 HR、3 年は 3 回実施。(◎)</p> <p>エ 各学期末に学校独自の「安心アンケート」を実施。「自身が不安」10.3%(-5.6)と低減。不安感をもつ生徒には担任から全員聞き取りを行い丁寧ケアを行う。(◎)</p> <p>(2)「防災について学ぶ機会」76%→80% (1 年 9/14 津波、2 年 11/30 地震火災、3 年 11/9 地震火災、9/21, 28 避難訓練を実施) (◎)</p> <p>(3) 6 月にキレイチェック美化月間で各クラス美化委員が清掃状況を点検。点検結果を一覧表にし見える化し意識を高めた。</p> <p>(4) 生徒「薬物から身を守る学ぶ機会」82.7%(+3.7) 10/5 (1 年) 薬物についての講演 (◎)</p> <p>(5) 体育祭や文化祭の機会や HR、情報の授業において、その都度情報端末での個人情報適正は取扱いについては指導を行った。(◎)</p> <p>(6) 各学期末ごとの椅子の破損など安全点検をきめ細かに行っている。生徒「施設設備の安全と衛生に学校は気を配っている」66.1%(+4.5) (◎)</p>
<p>3</p> <p>地域に根差した 魅力ある学校づくり</p>	<p>(1) 職場体験・実習などの充実</p> <p>(2) 地域に貢献できる部活動の活性化</p> <p>(3) 進路指導の充実</p> <p>(4) 授業や部活動での地域との交流や外部人材の活用</p> <p>(5) 統合新校の教育内容の創設</p>	<p>(1)</p> <p>ア 地域の企業、施設、区役所などと連携しインターンシップや職場体験を充実させる。</p> <p>(2)</p> <p>ア 体験入部、部活動紹介を活性化させ、部活動の参加率を向上させる。</p> <p>イ 活動状況を連絡黒板、生徒会ニュース、元気マンニュース、学校ホームページなどを用いて積極的に応援する。</p> <p>(3) 就職内定率、進学決定の上昇を図り進路未定率の減少を図る。</p> <p>(4) 授業・HR・部活動などで地域の保育所や施設との交流や外部人材を招き、外部の資産 (施設・設備・機関) を活用する。</p> <p>(5) 泉尾高校と協力し、両校の教育内容の特色が活かされるような授業内容や生徒指導の創造に取り組む。</p>	<p>(1)</p> <p>ア 参加生徒数、参加状況を把握する。インターンシップ 20 名以上 職場体験は斡旋希望者の参加割合の増加 (80%以上)</p> <p>(2)</p> <p>ア 参加率 34%→40%</p> <p>イ HP の更新状況 (80 回以上)</p> <p>(3)</p> <p>ア 就職内定率 100%</p> <p>イ 進学決定率 20%→15%</p> <p>進学決定率 100%</p> <p>(4) 回数と内容を把握する。</p> <p>(5) PT やワーキンググループ (WG) での検討内容と進捗状況の把握</p>	<p>(1)</p> <p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 9 名(±0)と昨年度と同数であるが参加者を精選し意欲が高まった。(△) ・ 応募前職場見学は 113 社(H28) →108 社(H29)、総人数 207 名→189 名で参加割合としては 5%増。(○) <p>(2)ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 参加率 40%(H28)→42%(H29) 年 2 回仮入部週間を設定し、入部を促し部員増にはつながった。(◎) <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ HP 更新は 20 回でより積極的な情報発信を行いたい。(△) <p>(3) 就職内定率 64/ 65 人 99%</p> <p>進学決定率 78/ 81 人 96%</p> <p>進路未決定率 21/163 人 15%</p> <p>昨年同様進学 78 名と多様な進路選択を実現できている。未定者は 15%となったが浪人等を含む。(○)</p> <p>(4) ECCグローバル体験(11/16)、NPO カタリバの大学生 50 名を迎え 1 年キャリア学習(11/30)、1 年校内職業体験(1/25)、2 年マナー講座(2/15) など実施。(○)</p> <p>(5) 統合新校 PT を 12 回開催(2/14 現在)。新校の一番の特色である新講座「リーディング・スキル」の教材づくりも順調である。各 WG も 10 回以上開催し両校の教育内容が活かされるように進んでいる。(◎)</p>